

冬山合宿 ニセコ山系(白樺山と目国内岳)

平成28年1月16日~17日

A班 CL: 藤木晴、SL装備: 小山内、食当L: 相馬、食当SL: 西田、
会計・渉外: 渡辺、記録: 山岸 6名

B班(日帰り組)スキー5名、スノーシュー7名

16日(土)7時伊達道の駅集合、今回の泊りのA班6名は全員山スキー、テント泊の為各人、大型ザックに寝具など詰め(飲み物が大半の人もある)参集する。

2台のRV車に分乗、真狩経由で蘭越町、新見温泉へ向かう。

途中2回のトイレタイムを経て9時40分到着

積雪は例年より少し少ない様だ。小雪降る中準備、体操はBC予定のテン場でする事にし出発(実際はテン場では無し、そういえば、ビーコンチェックも省略した)

10時 気温-6℃ 積雪20cm 前日のトレース跡をスキー班先頭で18名の大部隊、壮観です。

ヘアーピン
カーブのBC
テン場へ
(Co600m)

10時40分到着。早速、日帰り組も勉強のため一緒になりスクラムを組みベースの地固め 何か童心に帰っての遊びの様でした。



JB6人用
1張りと4人
用1張りの
テントを設営
11時35分
再編成出発
ラッセルを
交代しながら
高度を上げて
行く、身体が
汗ばむ。



やっと尾根急登手前の林の中でツエルト2張り
昼食、12時をとうに過ぎていた。

当所を13時35分発、腹に詰め元気が出たのか、快調に進むが登る程風雪が強まる。
休憩を挟み、14時20分岩峰の頂上へ

周りは何も見えないが登頂の満足感に浸りながら、あわただしく会旗を掲げ記念撮影。

泊まり組6名と日帰りスキー組5名、は北西斜面へ移動、F氏先頭に胸までのパウダーを滑降、これが無重力状態!、ふわふわと身体が浮き揚がる。ほんの20分程の体験。

シールを付け直し、15時道々を新見峠を越えBCへと急ぐ。大分時間が経過している。

我々泊り組はいいが日帰り組は暗くなるのではと心配になるが16時BC着、ここからは20分もあれば、登山口で待つスノーシュー組に合流するだろう。

いよいよ冬山テント生活の始まり。内張り張り、キジ場作り、ストーブでお湯作りと各自精を出す。

安着祝いが始まったのが17時半頃か。外はしんと小雪が降っている。N氏の生ハムのマリネ、と三ツ星半に昇格したS氏の具材沢山

の寄せ鍋で、延々22時まで宴は進む。雪が降り進む明日は大雪で進退不可能と思いが募るが飲み騒ぐ

翌17日5時起床、やっぱり大雪だ。目国内岳登山中止決定! また寝袋に入り直し7時まで眠り直す。朝食はうどんで力餅シャブシャブし、テント撤収9時20分下山開始、9時40分着。今季閉鎖される新見温泉ホテルで入浴、美人若女将の汁物をいただき帰登となる。

山岸記

